

デーリー東北

2022年(令和4年)6月22日(水曜日) (14)

アールテック(八戸)の電解水精製装置

若者の感性で斬新に

八戸工業大と地元企業とのデザイン協働プロジェクトとして、同大感性デザイン学科の学生が、アールテック(八戸市、類家伸一社長)が開発を進める「食品産業界向け環境配慮型両性電解水精製装置」の筐体(かぶた)をデザインした。16日、デザインを選ぶコンペが開かれ、学生らしく鮮やかで斬新な造形が披露された。(藤村大地)



コンペでデザインの意図を説明する学生

八工大生が筐体デザイン

工場設備の衛生管理業務などを手がける同社は現在、殺菌ができる酸性電解水と洗浄に用いるアルカリ性電解水を生成できる装置を開発している。この装置のデザインを同学科に依頼した。

同学科の授業「リビンググウェアデザイン演習Ⅰ」を受講する20人が、4月から取り組みを開始。8グループに分かれ、同社の開発コンセプトを聞きながら、デザインやネーミングなどを考案した。

コンペでは、学生が小型模型を使って、審査員を務める類家社長らに意図を説明。緊張した面持ちながら、はっきりとした口調で伝えた。

最優秀賞に輝いたのは、水のイメージを意匠に取り込んだ、いずれも2年の地代所美優さん(19)、小泉美綺さん(19)、滝澤知里さん(19)のグループ。地代所さんは「最優秀賞を取れると思わなかったの

で、うれしい」と笑顔を見せた。選出されたデザイン案はアールテックが監修し、サンライズエンジニアリング(五戸町、赤坂大樹社長)が設計と製作を行う。来年3月の製品化を目指している。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。